

■ 学校の共通目標

<b>授業作り</b>	<b>重 点</b>	・単元や時間ごとに学習目標や流れを焦点化すること、ICT・タブレット端末の効果的な活用でわかる授業を展開すること、時間ごとに計画的な板書に取り組み児童の思考を促すことを通して、確かな学力を育成する。	<b>中 間 評 価</b>	場面に応じて、ICT・タブレット端末を効果的に活用しながら、わかる授業を展開できるように心がけている。	<b>最 終 評 価</b>	
<b>環境作り</b>		・語彙力を豊かにし、主体的な学習力を高めるために、一人一冊の辞書を常に身近に置く。自学する力の伸長を目指して、朝の学習時間、家庭学習、タブレット端末等の活用を共通実践していく。		辞書を身近に置くことで、主体的に調べ、語彙力を豊かにする力が伸長してきている。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語	<p>学音読は、ほとんどの児童がすらすらと読むことができている。一方で、単語や文章ではなく文字を追って読んでしまっている児童もいるので、指導を続ける必要がある。</p> <p>学書くことにおいては、字の形やバランスに気を付けてひらがなや漢字を書くことができている。片仮名や「は」「を」「へ」、促音表記の定着には課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語や文章として読めていない児童がいるので、繰り返し指導する必要がある。</li> <li>似ている片仮名の字を間違えて覚えてしまうこと、「は」「を」「へ」を誤ってしまうこと、促音が抜けてしまうことがある。繰り返し指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の授業で繰り返し音読を行う。読み方の手本を教師が示し、よく読めているところを積極的に褒める。</li> <li>音読集を活用し、文章を読む機会を増やす。</li> <li>音読のテストを行い、一人一人の読み方を把握し、丁寧に指導する。</li> <li>音読の宿題を毎日出す。家庭と連携し、読みの力を高めていく。</li> <li>毎時間片仮名を読ませたり、教室後方に片仮名の掲示を貼ったりすることで、使用頻度の少ない片仮名についても忘れないようにさせる。</li> <li>「は」「を」「へ」や促音について、プリントやデジタルドリルを活用して繰り返し指導を行う。</li> </ul>	
	算数	<p>学繰り上がりのない加減計算は、具体物を使わなくても素早く計算できるようになった。しかし、繰り上がりのある計算に関しては、具体物が必要な児童がいる。</p> <p>学文章問題をきちんと読み取れず、足し算と引き算を間違えてしまうことや、答えに単位を付け忘れてしまうことも多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量感覚に課題が見られる児童がいるので、繰り返し指導する必要がある。</li> <li>落ち着いて文章問題を読み取り、答えに単位をつけ忘れていないか確認するように繰り返し指導する必要がある。</li> <li>時計の問題では、何時何時半の読み方を、誤ってしまう児童がいるので、指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量関係を養うために、具体物を使って問題に取り組ませる。</li> <li>10の構成を繰り返し確認し、定着を図る。</li> <li>計算プリントやワーク、計算カードやデジタルドリルなどを活用し、多くの計算問題に慣れさせる。</li> <li>文章問題では、キーワードとなる言葉を見つけさせ、足し算なのか引き算なのかを読み取れるようにする。</li> <li>プリントでもテストでも、最後には必ず見直しをさせ、見直しの習慣を身に付けさせる。</li> <li>ミニ時計やプリント、デジタルドリル等を活用し、何時・何時半の表し方に慣れさせる。</li> <li>時刻を問うなど、日頃から時計を読ませる習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	

学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>学音読については、きちんと文字を目で追ってすらすらと字を読むことができている児童がほとんどだが、指を使って1文字ずつゆっくりと読んでいる児童も数人いる。漢字については、特に読みについては概ね定着しているが、書きに関してはノート記述などから積極的に漢字を用いていない児童も見られる。「話す」「聞く」については、相手意識をもつことができる児童が少なく、話し合い活動については会話が繋がらないことが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返し音読の練習をして、文節や単語などを意識できるよう指導する必要がある。</li> <li>・ ノート指導や板書を通して、学習した漢字を書くことを徹底する必要がある。</li> <li>・ 話し合い活動やスピーチなどの決まった形の言い方の語彙を増やすとともに、聞く時の姿勢やリアクションなどを意識させる指導をする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「まる読み」「グループ読み」「追いかけ読み」「一人読み」など色々な音読の仕方を通して、単語の構成や読み方を意識させるとともに、音読集を併用して家庭学習でも音読の機会を増やす。</li> <li>・ 文字を書く機会を増やし、日常的なノート指導を通して、漢字を用いることの良さを伝え、学習した漢字を書くことを価値づける。</li> <li>・ 授業で話し方、聞き方を学習するとともに、隙間時間や学級会などで話し合う、聞き合う機会を作り、経験を積めるようにする。話型や聞き方を指導し、会話が繋がるよう練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み方の指導を通して、指を使って1文字ずつ読む児童は少なくなった。また、叙述を基に登場人物の心情を想像させることで、声の抑揚や大きさ、声色など工夫をする児童が増えている。</li> <li>・ ノート指導を通して、整ったノート作りができる児童が増えた。学習した漢字については、文を書きながらひらがなを漢字に直そうという意欲が大きくなっているため、継続してその大切さを価値付けていく。</li> <li>・ 話し方については定型文に沿って行うことができる児童が増えた。聞き方については、自分の意見を発表したい思いが強く、最後まで友達の意見を聞けないことがあるので、聞き方のきまりを作り、継続的に指導するようにしている。</li> </ul>	
	算数	<p>学基本的な計算問題は概ね定着しており、レディネステストでも全員が9割近く得点できていた。しかし、応用問題や文章問題など、数の概念に関することは理解できていない児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算問題を取り組む際に、ただ計算するだけではなく、数字の意味や、加法・減法の意味などを考えさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習中の発問や児童とのやり取りの中で、いま扱っている数字や計算の意味を考えさせる。</li> <li>・ 文章問題を注意深く読ませるために、細かく区切って読ませたり、音読させたり、重要なところにチェックを入れたりすることで、問われていることを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長さや水のかさの単位変換について定着不足が見られるので、定期的に復習できる機会や課題を朝学習や授業開始時、宿題等で設定する。</li> <li>・ 文章問題の内容が理解できるよう、知らない言葉を取り上げ、解説しながら学習を進める。</li> </ul>	
3	国語	<p>学音読は、その場面に応じた読み方をするのが上手な児童多い。一方で、未だ拾い読みをしている児童も1割程度いる。</p> <p>学文章表現では、「は」「へ」「を」や促音、片仮名の表記が定着していない児童が1割程度いる。「話す」は、相手に伝わるように話せることには課題がある。「聞く」は、大切なことを落とさずに聞けるように引き続き指導が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読するために、音読集を活用し、繰り返し練習が必要である。</li> <li>・ 文章表現では、「は」「へ」「を」や促音の表記が定着していないため、視写を取り入れ、機会あるごとに簡単な文章を書き、正しい表記を定着させる。</li> <li>・ 話し手をしっかり見ながら集中して話を聞き、話の内容を捉えられるよう、相手を意識して聞けるよう指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々、音読指導を行う。文と文との関係付けや、行間を意識して読み取らせる。また、漢字の部分で音読がなめらかでなくなることもあるので、デジタルドリルの漢字の読みの部分を活用していく。機会あるごとに、簡単な文章を書き、正しい表記を定着させる。目と耳をきちんと使った話の聞き方を、ことあるごとに指導し、よい姿勢で聞けていた児童を大いに認め、クラス全体に広げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読指導を行い、文と文との関係付けや、行間を意識して読み取れるようになった。引き続き、機会あるごとに簡単な文章を書き、正しい表記を定着させる。</li> <li>・ 基礎的な学力を向上させるために、授業開始時や宿題等で、視写・スピーチ・漢字・語彙・作文・視写の学習に取り組んでいく。</li> </ul>	
	算数	<p>学計算問題はおおむね理解ができている様子が見られる。文章問題は、加減どちらを使うか、何を求めているかを徐々に理解できるようになってきた。ノートへの書き方が丁寧に欠けるので、ミスをしたり、途中で何をしているのかよく分からなくなってしまったりする場面が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算や文章題の読み取りに落ち着いてとりかかれるようにする必要がある。計算の単純ミスだけでなく、答えに単位をつけていなかったり、問題を飛ばしてしまったり無回答になってしまったりすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章をよく読み、問われていることをしっかり理解できるよう具体物等を使ってイメージできるようにする。毎週行われている東京ベーシック・ドリル及びデジタルドリル、宿題、授業の復習などで、苦手な分野に関しての反復練習を行う。テストや課題が終わってから、もう一度全体を見渡し、空白の部分がないか確かめる習慣をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別の少人数指導を充実させ、個に応じた的確な指導をしやすいようにしている。</li> <li>・ デジタルドリルや宿題、授業の復習などで、苦手な分野に関して反復練習をしたり授業開始時に基礎的な四則計算の練習を行ったりして、計算力がついた。さらに、授業と家庭学習を連動させ、授業内容に応じた課題をデジタルドリル等を活用して出し、習熟の徹底を図る。</li> </ul>	

4	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の正答率は、目標値を大きく下回っている。特に、領域「言葉の特徴や使い方に関する事項」は 19.5 ポイント、「書くこと」は 43.0 ポイント目標値を下回った。観点別でも、「主体的に学習に取り組む態度」が 45.4 ポイント目標値を下回るなど、各項目で大きく下回っている。また、区全体の誤答傾向と比べると、誤答だけでなく、無回答の割合が高い。</p> <p>学ノート等の記述から、登場人物など比較的読み取りやすいことについては書くことができているが、人物の行動などまとめることが必要なことについてはなかなか書くことができない。また、発言をもとに板書したことについて書くことも難しい様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くことについて抵抗がないようにしていく必要がある。ノート指導や板書を通して、「何を」「どれだけ」「どのように」書くかを明確にし、端的に書くことができるようよう指導していく必要がある。</li> <li>また、習った漢字や言葉を適切に使うことができるように指導していく必要がある。</li> <li>さらに、経験不足からか、語彙力や表現力が十分でない児童も目立つため、書く活動に限らず、語彙を増やしていく必要がある。書きたいことを整理しながら、事柄の順序を考え書くことが難しい児童が多いため、指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書の内容を精選し、書き写すことができるようにしていく。</li> <li>日々の漢字指導の中で、書き順や熟語の指導に加え、その漢字の生活の中での使い方についても見本を示し、活用できるようにしていく。</li> <li>意味調べを通して、語彙力を高めることができるようにしていく。</li> <li>家庭学習やデジタルドリルを活用し、個に応じた学習を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の漢字指導において、教員が使い方の手本を示す際に、大半の児童が興味関心をもって聞いたり、考えたりすることができており、話し言葉として語句を使う力は定着してきた。また、意欲的に漢字辞典を使って部首調べを行うことができていく。しかし、書き言葉としての定着は 50%以上である。授業のまとめや短文を書く活動等を通して、更なる定着を図っていく。</li> <li>辞書を使った意味調べも意欲的に行っている。語彙力を高めるため、ノート等への記入も積極的に進めるようにしていく。</li> <li>漢字力の向上についてはまだ不十分である。宿題、デジタルドリル等の活用を通して、定着するための工夫を図っていく。</li> </ul>
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査の正答率は、目標値を大きく下回っている。特に、領域「図形」は 19.3 ポイント、「測定」は 12.7 ポイント目標値を下回った。問題の内容別正答率では、「かけ算」と「円と球」と「長さ・重さ」が目標値を 10 ポイント以上下回った。また、区全体の誤答傾向と比べると、誤答だけでなく、無回答の割合も高い。</p> <p>学習熟度別少人数指導では、意欲的に学習に取り組むことができていく。しかし、授業の中だけでは学習内容が定着しづらい児童や理解に時間がかかる児童が複数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査の「長さ・重さ」では、身近にあるものについて適切な単位を使うことができていないため、児童の身近な生活の中から課題を提示し、解くことができるよう指導していく必要がある。</li> <li>また、文章題になると躓きが多く見られるため、四則の中でどれを使うか、なぜそれを使うかを伝えることができるよう指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別少人数指導で、個に応じた指導をしたり、なぜそうなるかを児童の言葉で明確にしたりしていくことができるようにしていく。</li> <li>実物投影機等を活用して、見たり体験したりすることで理解を図ることができるようにしていく。</li> <li>文章題では、数値やキーワードに線を引かせるなどの活動を通して、根拠を明確にしながら立式できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別少人数指導では、担当する児童がある程度固定化してきているため、児童の実態が把握しやすくなっている。把握した実態をもとに、個に応じた指導を進めている。</li> <li>四則計算や文章題の立式など、児童によって習熟の差が激しい。その時間はできていても定着していない児童も半数程度いるため、デジタルドリルの活用、確認を通して、定着を図っていく。</li> </ul>
5	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の正答率は、目標値を大きく下回っている。特に、領域「言葉の特徴や使い方に関する事項」は 17.5 ポイント、「書くこと」は 29.8 ポイント目標値を下回った。観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」が 26.8 ポイント目標値を下回った。また、区全体の誤答傾向と比べると、誤答だけでなく、無回答の割合が高い。</p> <p>学ノート記述から分かることは、漢字を書くことを面倒がったり、送り仮名や言葉の使い方を誤ったりすることがあり、言葉の力が定着していない状況がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定された長さで文章を書くことや、段落の役割を意識しながら文章構成を考えることができるように指導する必要がある。</li> <li>考えや気持ちを表す語句など、使える語句の量を増やし、語彙を豊かにする指導をする必要がある。</li> <li>既習および第 5 学年の配当漢字を正しく読み書きできるように指導する必要がある。</li> <li>目標や目的を意識して学習に取り組む等、主体的に学習に取り組む態度を育成していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成の型を示したり、授業の中で記述の機会を増やしたりして、繰り返し丁寧に指導することで、書く力の向上を図る。</li> <li>教科書の巻末にある「言葉の宝箱」を活用し、考えや気持ちを表す語句に数多く触れ、適切に使いこなすことができるようにする。</li> <li>漢字辞典と国語辞典を活用し、漢字学習ノートを使った学習に取り組むことで、形・音・儀を一体化した漢字学習で、漢字力の向上を図る。</li> <li>授業では、単元や時間ごとに学習目標や学習の流れを明確にし、見通しをもって学習に取り組むことができるようにしたり、目標に対する振り返りをできるようにしたりすることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に辞典を活用する児童が増えてきたことで、語彙力が豊かになってきている。</li> <li>定期的な漢字小テストに取り組むことで、漢字の使い方についての漢字力の向上が見られる。</li> <li>単元や時間ごとの学習目標や学習の流れを明確に示すことで、見通しをもって学習に取り組むことができるようになってきた。さらに、自己学習能力の向上を目指して、児童と共に学習目標や単元のゴールを設定するようにしている。</li> </ul>
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査の正答率は、目標値を大きく下回っている。特に、領域「数と計算」は 10.8 ポイント、「データの活用」は 12.1 ポイント目標値を下回った。問題の内容別正答率では、「億と兆・がい数の表し方」と「計算のきまり」と「折れ線グラフ」が目標値を 10 ポイント以上下回った。また、区全体の誤答傾向と比べると、誤答だけでなく、無回答の割合が若干高い。</p> <p>学朝学習や習熟度別少人数指導では、意欲的に学習に取り組むことができていく。ただし、授業の中だけでは学習内容が定着しづらい児童や理解に時間がかかる児童が複数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の理解が身に付いていない児童の割合が高くなり始めているので、個に応じた指導をしていく必要がある。</li> <li>位が大きくなったり、小数や分数になったりしても、計算のきまりを使って、正しく計算できるように指導する必要がある。</li> <li>がい数の意味を理解し、目的に合った数の処理の仕方について指導する必要がある。</li> <li>グラフからデータの傾向を読み取ることに加えて、目もりの大きさを理解させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習や習熟度別少人数指導で、個に応じた指導をしたり、スモールステップで理解を深めたりしていくことで、学習内容の定着を図る。</li> <li>デジタルドリルの機能を生かし、一人一人の児童の課題を把握し、個別に課題を設定して、個別最適化学習に取り組んでいく。</li> <li>位取りの図や数直線を用いたり、ICT機器を活用したりして、視覚的に数の大きさ等を捉えやすくする工夫をしながら指導し、学習内容の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別少人数指導で、クラスを固定化することで、個の児童の定着度や理解度を的確に把握しながら指導を進めている。</li> <li>朝学習で基本的な四則計算の確認と練習に取り組むことで、計算力の向上を図っている。</li> <li>デジタルドリルは、児童によって取り組みに差があり、機能を生かし切れていないので、先行事例を参考に活用させていく。</li> </ul>

6	国語	<p>調領域別正答率では、「我が国の言語文化に関する事項」と「書くこと」が目標値を大きく下回っている。また、内容別正答率では「漢字を書くこと」と「文章を書くこと」が際立って低い。</p> <p>学ノートを意欲的に書き、分からないことがあればすぐに質問し、解決しようとする。生活言語及び学習言語の乏しさから、文章の意味を推測することが苦手であり、定着には時間がかかる様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書くことに苦手意識を感じている児童がいる。文章を書く活動に抵抗感なく取り組めるよう指導する必要がある。</li> <li>主語・述語の関係が文章を書いていくと、ねじれてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の例文を参考にして、文章構成を考えさせることにより、書くことへの抵抗感を軽減させる。</li> <li>国語だけではなく、各教科においても自分の考えを書く活動を多く取り入れる。</li> <li>書いた文章を声を出して読ませ、主語と述語の関係が正しいかの見返しをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、既習漢字の確認テストをすることで、着実に力がついてきている。漢字と熟語の意味を確認しながら、活用できるように声掛けをしていく。</li> <li>グループで文章を考える活動を通して、互いにアドバイスしながら、協力して書くことができるようになってきた。</li> </ul>
	算数	<p>調領域別正答率では、「数と計算」と「図形」の領域において大きな課題がある。内容別正答率では、「分数のたし算・ひき算」と「体積」が目標値を下回る。</p> <p>学教え合いの姿が良く見られ、互いに学ぼうとしている。習熟度別算数では、理解度に応じて学習を進めているが、記述内容の理解に時間がかかったり、学習内容が定着しづらかったりする様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい単元に入った際に、前単元での学習内容を活かして学習できるよう既習の学習をしっかりと定着させる必要がある。</li> <li>最終学年になり、学習内容が複雑化するに伴って、混乱してしまう児童が見受けられる。また、計算などの解法はできるものの、「なぜそうなるのか」について考えられない児童が多く、問題解決の意欲が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の始めに、前時までの内容を復習し、本時の学習がどのようにつながっているか、大まかに理解できるようにする。</li> <li>デジタルドリル等を活用して、個別最適化された学びができるように支援していく。</li> <li>少人数指導により、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容をミニホワイトボードにまとめることで、思考の手助けになるようにしている。必要な児童には、自分で確認するようにさせている。</li> <li>デジタルドリルは、おおむね取り組むようになってきている。但し、宿題の範囲のみ取り組み、自ら自主学習に取り組む児童は少ないため、声掛けをしていく。</li> </ul>
音楽	<p>学音楽を好んで楽しく活動する児童が多いが、コロナ禍のため2年間、歌唱や吹奏楽器を使った学習が十分とはいえない。特に低学年の歌唱活動での音高感、低学年の鍵盤ハーモニカや中学年リコーダーにおけるタンギングの技能、高学年の歌唱でのハーモニー感が十分に身につけていない。</p> <p>学器楽アンサンブルやリズムアンサンブルを多く取り扱うことで友だちと合わせて演奏したり、発展的な内容を含めた鑑賞活動を多く取り入れたりして、音楽活動に対する興味関心や意欲は高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音高感、ハーモニー感を身につける指導を重点的に行う必要がある。</li> <li>表現活動と結びつく「思いや願い」は感覚的にもっているが、言語化することが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染状況に配慮しながら、音高を手で表しながら歌唱活動をしたり、キーボードを併用しながらパートの音を確認して声を重ねたりという活動を多く取り入れる。</li> <li>唱えるようにくりかえし口にすることで言葉が定着しやすいので、日々の活動の中に多く取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染状況に配慮しながらではあるが、歌える機会が以前より増やせている。音高感を補うために手を動かしながら階名唱したり、キーボードを併用して音を確認しながら歌ったりする活動を多く取り入れている。学年に応じて、音程を取れる児童が増えてきている。</li> <li>リコーダーやキーボード、伴奏用の音源を「速度遅め、階名入り」「速度遅め、階名無し」「速度普通、階名無し」の3種類を用意し、タブレットでも聴けるようにしたので、各自自分に合わせて練習に取り組んでいる。</li> </ul>	
図工	<p>学どの学年も、意欲的に創作活動に取り組み、表現することを楽しんでいる児童が非常に多い。一部の児童は、個性的な表現や自分なりの工夫に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想がうかばなかったり、自分の表現に自信が持てなかったりして、なかなか作業が進まない児童の姿がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入で参考作品を見せたり、教師の実演を見せたりして、活動への意欲を高める。</li> <li>一人ひとりが自分の思いをのびのび表現できるよう、表現を認める肯定的な声掛け・アドバイスを通して積極的に支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入の時間を端的にまとめ、意欲が高まったところで活動に入れるよう工夫している。</li> <li>個々の表現活動を尊重し、2時間の授業内で一人1回以上、必ず前向きな声掛けを行っている。</li> </ul>	
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況      学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況      ※分量は2ページ以上となってもよい。